

## Ⅲ 特別入試

### 1 推薦入試（理学院）

個別学力検査を免除し、大学入試センター試験の成績、出願書類及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。

#### 1. 求める学生像

理学院は幅広い教育と自由な発想に基づいた研究を通じて、社会や文化の発展に広く貢献することを目指しています。このために次のような学生を求めています。

- ① 自然界の仕組みについて深く知りたいという強い好奇心を持つ人
- ② 教わるだけでなく、自ら主体的に学ぶことができる人
- ③ 自分の意見を持ち、他者と議論することができる人
- ④ 十分な学力と表現力を持つ人

#### 2. 出願資格

次のいずれかに該当し、かつ、学校長が責任をもって推薦できる者とする。

- ① 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を令和2年3月修了見込みの者

#### 3. 試験日程

|         | 試 験 日 程                  |
|---------|--------------------------|
| 出 願 期 間 | 令和元年12月17日（火）～ 12月19日（木） |
| 合格者発表日  | 令和2年2月12日（水）             |
| 入学手続日   | 令和2年2月19日（水）             |

#### 4. 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目

志願者は、以下に示す本学が指定する教科・科目を全て受験してください。

なお、指定された教科・科目を1つでも受験しない場合は、本学に出願することはできません。

| 教 科              | 科 目  |
|------------------|--|
| 国 語              | 「国語」   |
| 地理歴史<br>,<br>公 民 | 「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」, 「現代社会」, 「倫理, 政治・経済」<br>から1科目    |
| 数 学              | 「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」の2科目                               |
| 理 科              | 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2科目                            |
| 外 国 語            | 「英語(リスニングを含む)」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」<br>から1科目 |

注. 「地理歴史, 公民」において、指定した科目数を超えて受験した場合には第1解答科目の得点を用います。ただし第1解答科目が本学が指定した科目でない場合には、出願することができません。（この場合の第1解答科目とは、「地理歴史, 公民」の試験時間に2

科目を受験した場合において、前半の60分間で解答した科目のことをいいます。)

## 5. 推薦要件等

### (1) 推薦人員

学校長が下記の推薦要件①及び②により推薦できる人数は合計2名までとします。  
推薦要件③により推薦できる人数は制限がありません。

### (2) 推薦要件

理学における高い能力を示す下記の①、②、③のいずれかに該当し、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。

- ① 正規の授業科目の一環として実施した課題研究（理学及びそれに関連した内容に限る）で主導的な役割を果たし、優れた成果を挙げてそれを取りまとめて発表した者
- ・課題研究の例1. SSHの課題研究で〇〇〇に関する研究を行い、県や全国の会で発表。
  - ・課題研究の例2. 卒業研究として〇〇〇に関する研究を行い、校内で発表。
  - ・課題研究の例3. 総合学習で行った研究成果を大学主催の研究会で発表。

- ② 課外活動において理学に関連した研究を行って優れた成果を挙げ（主導的な役割を果たしたことが必要）、それを取りまとめて校外で発表したことを客観的に示す資料を提出できる者

- ・課外活動の例1. 〇〇部のクラブ活動で2年間継続して研究を実施し、校外で発表。
- ・課外活動の例2. 夏休みに10日間継続して△△で野外調査を実施し、校外で発表。

- ③ 数学、物理、化学、地学のいずれかの国際科学オリンピックに日本代表として出場した者、又は国際科学オリンピックの国内最終予選に相当する大会で優秀な成績を収めた者

※ 上記の推薦要件①及び②における「優れた成果」とは、学校内で現在及び過去の生徒との比較において特に優れていると学校長が認定できるものを指します。

## 6. 提出書類等

各推薦要件における推薦書等への記載事項は下記を参照ください。

### (1) 推薦書への記載事項（学校長による記載）

#### ア 推薦要件①について

- ・課題研究を行った科目名（総合的な学習等の一部として行った場合も含む）
- ・当該課題研究が特に優れていると判断される理由
- ・グループで研究を行った場合は志願者の果たした役割を明示すること
- ・学業や人物に関する所見

#### イ 推薦要件②について

- ・課外活動で行った研究の題目
- ・当該課外活動における研究が特に優れていると判断される理由
- ・グループで研究を行った場合は志願者の果たした役割を明示すること
- ・学業や人物に関する所見

#### ウ 推薦要件③について

- ・出場した国際科学オリンピック又はその国内最終予選に相当する大会について（名称・開催年月・開催場所、入賞記録等の成績）
- ・学業や人物に関する所見

### (2) 研究内容の要約（志願者本人による記載）

#### ア 推薦要件① 課題研究の内容の要約（課題研究用）

#### イ 推薦要件② 課外活動における研究の内容の要約（課外活動用）

#### ウ 推薦要件③による出願の場合は不要

### (3) 願書提出

出願書類は、当該学校長からの提出となります。

## 2 AO入試（工，物質理工，情報理工，生命理工，環境・社会理工学院）

入学者の選抜は、学力検査（大学入試センター試験と本学が実施する個別学力検査）、志望理由書、調査書及び各学院が指定する提出書類によって行います。

### 1. 求める学生像

#### （1）工学院

機械系，システム制御系，電気電子系，情報通信系，経営工学系の学問分野に強い興味を抱き，人類と社会の持続的発展に貢献しようという高い志と理系科目を中心に十分な基礎学力を有する者。とりわけ AO 入試では，柔軟な発想力と，その発想を他者と共有するための説明力および他者の発想を理解できる能力に秀でた素質が認められる者を強く求めます。

#### （2）物質理工学院

物質理工学院では，材料学および応用化学に関する確かな基礎学力と明快な論理的思考力を持ち，環境調和型社会の発展に貢献できる人材を養成します。そこで，自然科学の幅広い分野について基礎学力を有し，柔軟な発想ができる学生，材料や応用化学に関係する諸現象について積極的に学習する意欲がある学生を求めます。

#### （3）情報理工学院

次のような資質と能力を持つ人を求めます。数学や理科に関する十分な基礎学力を有する人，数理学に強い興味を持つ人，コンピュータの仕組みや活用法に興味を持つ人，情報化社会の発展に貢献したいという志を有する人。とりわけ AO 入試ではこれらの資質や能力のいずれかに秀で，自発的に活動できる人を強く求めます。

#### （4）生命理工学院

生命現象を徹底的に探求したいという旺盛な知識欲を持つ者，また，そこから得られた知識を応用して新しい創造的世界を開拓したいという意欲にあふれる者など，チャレンジングな理系精神を持って生命理工学を学びたい者。とりわけ AO 入試では，生物に秀でた素質が認められる者を求めます。

#### （5）環境・社会理工学院

人類と社会の持続的発展に環境と生活・産業基盤の観点から貢献しようという高い志を有し，理系科目を中心に確実な基礎学力を備えた者。とりわけ AO 入試では，ローカルおよびグローバルな問題の解決に対する柔軟な発想力と，その発想を他者と共有するための表現力の 2 点に秀でた素質が認められる者を強く求めます。

### 2. 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和 2 年 3 月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による 1 2 年の学校教育を修了した者及び令和 2 年 3 月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第 1 5 0 条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和 2 年 3 月 3 1 日までにこれに該当する見込みの者

### 3. 試験日程

|                           | 試 験 日 程                   |
|---------------------------|---------------------------|
| 出 願 期 間                   | 令和元年12月17日(火) ~ 12月19日(木) |
| 第1段階選抜<br>合格者発表日          | 令和2年2月5日(水)               |
| 第2段階選抜<br>個別学力検査<br>実 施 日 | 令和2年2月9日(日)               |
| 合格者発表日                    | 令和2年2月12日(水)              |
| 入 学 手 続 日                 | 令和2年2月19日(水)              |

### 4. 大学入試センター試験の取扱い

#### (1) 受験を要する教科・科目

志願者は、以下に示す本学が指定する教科・科目を全て受験してください。

なお、指定された教科・科目を1つでも受験しない場合は、本学に出願することはできません。

| 教 科              | 科 目  |
|------------------|--|
| 国 語              | 「国語」   |
| 地理歴史<br>,<br>公 民 | 「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」, 「現代社会」, 「倫理, 政治・経済」<br>から1科目    |
| 数 学              | 「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」の2科目                               |
| 理 科              | 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2科目                            |
| 外 国 語            | 「英語(リスニングを含む)」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」<br>から1科目 |

注. 「地理歴史, 公民」において、指定した科目数を超えて受験した場合には第1解答科目の得点を用います。ただし第1解答科目が本学が指定した科目でない場合には、出願することができません。(この場合の第1解答科目とは、「地理歴史, 公民」の試験時間に2科目を受験した場合において、前半の60分間で解答した科目のことをいいます。)

## (2) 各教科の配点

大学入試センター試験の各教科の配点は、下表のとおりです。

| 教科 | 国語  | 地理歴史<br>，<br>公民 | 数学  | 理科  | 外国語※ | 合計  |
|----|-----|-----------------|-----|-----|------|-----|
| 配点 | 200 | 100             | 200 | 200 | 250  | 950 |

※ 外国語科目として英語以外の科目を選択した者及び英語リスニング免除者は、外国語配点200点を250点に換算した得点とします。

## 5. 出願に際しての注意

合格した場合には必ず入学することを確約できること。

## 6. 提出書類等

### ア 全学院共通

- ・志望理由書

志望理由を800字以内で記述

### イ 情報理工学院

- ・活動実績報告書

活動実績報告書は、志願者の活動や研究を志願者本人が記載するものです。

活動や研究の例：ソフトウェアの開発や調査，数学オリンピック，情報オリンピックやプログラミングコンテストへの参加，難しい数学の証明への挑戦，学内や学外での課題研究，数学セミナーの「エレガントな解法求む」に採用された経験，機械学習ツールの使用経験等

### ウ 環境・社会理工学院C

- ・英語外部スコア（任意提出）

英語外部スコアは任意提出。4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）試験（英検，TEAP，TOEFL，IELTSなど）が望ましいが，それ以外の試験（TOEICなど）も受け付けます。

- ・国際バカロレア成績証明書（該当者のみ）

## 7. 2段階選抜

### (1) 第1段階選抜

#### ア 試験内容

#### 【工学院，物質理工学院，環境・社会理工学院A，B】

志願者数が学院（環境・社会理工学院においてはAまたはB）ごとの募集人員の約2～3倍を超えた場合には，本学が指定する大学入試センター試験5教科7科目の成績（得点合計）により第1段階選抜を行うことがあります。

#### 【情報理工学院】

志願者数が学院の募集人員の約2～3倍を超えた場合には，大学入試センター試験の得点と出願書類を用いて第1段階選抜を行うことがあります。第1段階選抜の判定では活動実績報告書の内容を重視します。大学入試センター試験の得点は，基礎学力の判定のために用い，概ね700点以上の得点かどうかで判断します。

【生命理工学院】

大学入試センター試験の得点は、基礎学力の判定のために用い、概ね700点以上の得点かどうかで第1段階選抜を行います。

さらに、志願者が学院の募集人員の約2～3倍を超えた場合には、大学入試センター試験の得点と出願書類を用いて第1段階選抜を行うことがあります。

【環境・社会理工学院C】

志願者数が環境・社会理工学院Cの募集人員の約2～3倍を超えた場合には、大学入試センター試験の得点と志望理由書、調査書、その他提出書類を用いて第1段階選抜を行うことがあります。大学入試センター試験の得点は基礎学力の判定のために用い、概ね700点以上の得点かどうかで判断します。

イ 第1段階選抜合格者発表日 令和2年2月5日（水）

(2) 第2段階選抜

第1段階選抜に合格した者に対して、次のとおり行います。

ア 試験日等

・第2段階選抜試験実施日 令和2年2月9日（日）

◎個別学力検査（総合問題）

| 学 院       | 総合問題       | 試験時間                             | 配点  |
|-----------|------------|----------------------------------|-----|
| 工学院       | 筆記<br>面接   | 9:30～11:30 (120分)<br>13:30～16:30 | 100 |
| 物質理工学院    | 筆記<br>面接   | 9:30～11:00 (90分)<br>13:00～18:00  | 100 |
| 情報理工学院    | 面接         | 9:30～18:00                       | 100 |
| 生命理工学院    | 筆記<br>面接   | 9:30～11:00 (90分)<br>13:30～17:00  | 100 |
| 環境・社会理工学院 | A 造形課題     | 9:30～11:30 (120分)                | 100 |
|           | B 筆記<br>面接 | 9:30～11:00 (90分)<br>13:00～16:30  | 100 |
|           | C 面接       | 9:30～12:30                       | 100 |

イ 試験内容等

| 学 院       | 総合問題 | 内 容  |
|-----------|------|--|
| 工学院       | 筆 記  | 工学の基礎となる与えられた課題に対する論理的な思考力, 解決力および記述力を評価する。                                    |
|           | 面 接  | 工学分野に対する志望動機, 与えられた物理や数学のテーマに関して論理的かつ明快に説明する能力を評価する。                           |
| 物質理工学院    | 筆 記  | 自然科学全般を範囲とし, 特に化学と物理を中心とする知識及び考え方について出題し, 論理的な思考力とともに記述力も評価する。                 |
|           | 面 接  | 科学的な知識及び考え方について試問し, 考察力, 表現力とともに物質についての科学技術を学ぶ上での適性を評価する。                      |
| 情報理工学院    | 面 接  | 志願者の活動実績報告書に関する発表や質疑応答等に基づき, 情報に対する適性・素養・説明能力を評価する。                            |
| 生命理工学院    | 筆 記  | 生物に関する設問により, 基礎学力, 論理的な思考力及び記述力を評価する。  |
|           | 面 接  | 生命理工学分野に対する志望動機, 学習意欲, 論理的な思考力及び適性を評価する。                                       |
| 環境・社会理工学院 | A    | 造形課題<br>高校数学Ⅲ程度までの数学を応用した建築に関連する形態の造形, スケッチおよび説明文を解答させ, 建築・都市空間の創造力を評価する。      |
|           | B    | 筆 記<br>面 接<br>国内外の社会や環境に関わる公共的な課題に対して, 問題の所在を整理し, 解決できる素養並びにその表現の能力を評価する。      |
|           | C    | 面 接<br>グローバル化する世界における様々な国際的な環境・社会問題に対して, 科学技術を活用して問題解決に貢献するための素養を, 面接によって評価する。 |

※ 学士課程2年目の系所属の際に環境・社会理工学院では, 総合問題Aを受験し合格した者は建築学系に, 総合問題Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に, 総合問題Cを受験し合格した者は融合理工学系に, それぞれ所属する。

ウ 試験場

個別学力検査は, 本学大岡山キャンパスで行います。

### 3 1 費外国人留学生特別入試

|         |  |   |
|---------|--|---|
| 実施学院・系名 | 下記のとおり   |   |
| 募集人員    | 下記のとおり   |   |
| 出願資格    | <p>次の(1)、(2)及び(3)の全てを満たしている者</p> <p>(1)日本国籍を有しない者</p> <p>(2)在留資格「留学」の者又は入学時に「留学」を取得できる見込みの者で、次の各号のいずれかに該当するもの</p> <p>① 外国において、学校教育(文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を除く。)における12年の課程を修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの<sup>(注1)</sup></p> <p>② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者及び「グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国」において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格(GCEA レベル資格)を有する者</p> <p>③ アメリカ合衆国カリフォルニア州に主たる事務所が所在する団体であるWASC、同国コロラド州に主たる事務所が所在する団体であるACSI又はグレートブリテン及び北部アイルランド連合共和国ハンプシャー市に主たる事務所が所在する団体であるCISから教育活動等に係る認定を受けた外国に所在する教育施設に置かれる12年の課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>(3)独立行政法人日本学生支援機構主催、2019年度日本留学試験の日本語(記述、読解、聴解・聴読解)及び理系3科目(物理、化学、数学コース2:日本語又は英語での受験可)を受験し、日本語の成績が290点以上、理系3科目の成績が310点以上であること<br/>(成績結果は、6月又は11月の試験のいずれか一方しか利用できない。)</p> <p>(注1)「これに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの」とは、昭和56年文部省告示第153号に指定されたもの</p> <p>(注2)日本の高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者(卒業見込みの者を含む。)及び日本国永住許可を得ている者は、本入試に出願することはできない。</p> |   |
| 選抜方法等   | <p>大学入試センター試験を免除し、日本留学試験の成績並びに本学が行う学力検査及び面接の成績を総合して行う。なお、志願者が募集人員の約3～4倍を超えた場合には、本学が指定する日本留学試験の日本語及び理系3科目の成績(合計得点)により第1段階選抜を行うことがある。第1段階選抜に合格した者に対して、第2段階選抜として、学力検査(数学、物理、化学、英語、日本語)及び面接試験を行い、最終合格者を決定する。ただし、第2段階選抜は学力検査を第1次選考とし、その合格者に対し第2次選考の面接試験を行う。</p>   |   |
| 出願期間    | 令和2年 1月 6日(月)～ 1月 8日(水)  |   |
| 選抜期日    | 第1段階選抜 合格者発表日  | 令和2年 1月16日(木)   |
|         | 第2段階選抜 実施日   | <p>第1次選考(学力検査) 令和2年 1月22日(水)</p> <p>第2次選考(面接) 令和2年 2月14日(金)</p> |
| 合格者発表日  | 令和2年 3月 9日(月)  |   |
| 入学手続日   | 令和2年 3月27日(金)  |   |

実施学院・系名、募集人員

| 学 院       | 系        | 募集人員                 |
|-----------|----------|----------------------|
| 理学院       | 数学系      | 若干人                  |
|           | 物理学系     |                      |
|           | 化学系      |                      |
|           | 地球惑星科学系  |                      |
| 工学院       | 機械系      | 10人                  |
|           | システム制御系  |                      |
|           | 電気電子系    |                      |
|           | 情報通信系    |                      |
| 物質理工学院    | 経営工学系    | 5人                   |
|           | 材料系      |                      |
| 情報理工学院    | 応用化学系    | 若干人                  |
|           | 数理・計算科学系 |                      |
| 生命理工学院    | 情報工学系    | 若干人                  |
|           | 生命理工学系   |                      |
| 環境・社会理工学院 | 建築学系     | 25人<br>(うち融合理工学系20人) |
|           | 土木・環境工学系 |                      |
|           | 融合理工学系   |                      |



## 4 国費外国人留学生優先配置入試

|         |   |
|---------|---|
| プログラム名  | 融合理工学系国際人材育成プログラム (GSEP)  |
| 実施学院・系名 | 環境・社会理工学院 融合理工学系  |
| 募集人員    | 国費外国人留学生8人, 私費外国人留学生10人   |
| 出願資格    | <p><u>(A)国費外国人留学生を希望する場合</u></p> <p>対 象：新たに海外から留学する者<br/>         国 籍：日本政府と国交のある国の国籍を有すること。<br/>         年 齢：原則として、平成7年4月2日以降に出生した者<br/>         学 歴：外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又は日本の高等学校に対応する学校の課程を修了した者（渡日前までに満たす見込みの確実な者を含む。又は、上記以外の資格により日本の大学入学資格を有する者を含む。）</p> <p>渡日時期：原則として令和2年4月1日から4月7日までの間に渡日可能な者<br/>         査証取得：原則として渡日前に「留学」の査証を必ず取得し、「留学」の在留資格で入国すること。<br/>         そ の 他：次に掲げる者については、国費外国人留学生の対象外とする。採用以降に判明した場合には辞退すること。</p> <p>①渡日時及び奨学金支給期間において、現役軍人又は軍属の資格の者<br/>         ②本学の指定する期日に渡日できない者<br/>         ③過去に日本政府（文部科学省）奨学金留学生であった者（渡日後辞退者含む）<br/>         ④日本政府（文部科学省）奨学金制度による他の奨学金支給開始のプログラムとの重複申請をしている者<br/>         ⑤申請時に既に在留資格「留学」で日本の大学等に在籍している者及び申請時から奨学金支給期間開始前に私費外国人留学生として日本の大学等に在籍、又は、在籍予定の者。ただし、現在、日本の大学等に在籍又は、在籍予定の私費外国人留学生であっても、奨学金支給期間開始前に修了し帰国することが申請時において確実で、新たに在留資格「留学」を取得し渡日する者はこの限りではない。<br/>         ⑥奨学金支給開始後に日本政府（文部科学省）以外の機関（自国政府機関を含む）から奨学金を受給することを予定している者<br/>         ⑦「卒業見込みの者」であって、所定の期日までに学歴の資格及び条件が満たされない者<br/>         ⑧申請時から日本以外での研究活動（インターンシップ、フィールドワーク等）や休学等を長期間予定している者</p> <p><u>(B)私費外国人留学生を専願する場合</u></p> <p>対 象：海外在住、日本在住を問わない<br/>         国 籍：日本国籍を有しない者<br/>         年 齢：原則として、令和2年3月31日までに18歳に達する者<br/>         学 歴：外国において、学校教育（文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を除く。）における12年の課程を修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者若しくはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（注1）又は文部科学大臣の指定した者のうち本学が指定するもの（注2）</p> <p>渡日時期：原則として3月中に渡日可能な者<br/>         査証取得：在留資格「留学」の者又は入学時に「留学」を取得出来る見込みの者<br/>         そ の 他：次に掲げる者については、合格等を取り消すことがある。<br/>         「卒業見込みの者」であって、所定の期日までに学歴の資格及び条件が満たされない者</p> <p>（注1）「これに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの」とは、昭和56年文部省告示第153号に指定された者<br/>         （注2）「文部科学大臣の指定した者のうち本学が指定するもの」とは、昭和23年文部省告示第47号において第20号から第24号により、文部科学大臣が指定した者<br/>         （注3）日本の高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む。）及び日本国永住許可を得ている者は、本入試に出願することはできない。</p> |
| 選抜方法等   | 第1次選考を書類審査により行い、第1次選考の合格者に対し、第2次選考を面接及び筆記試験（高校の数学・物理・化学の範囲から出題する）で行い、最終合格者を決定する。  |
| 出願期間    | 令和元年 8月19日（月）～ 9月 5日（木）   |
| 選抜期日    | 第1次選考（書類選考）結果通知 令和元年 9月27日（金）<br>第2次選考（面接及び筆記試験） 令和元年 9月30日（月）～10月31日（木）  |
| 合格者発表日  | 令和元年11月20日（水）   |
| 入学手続日   | 令和2年 3月27日（金）   |
| その他     | <p>1. 合格者のうち上位8名を、本学より国費外国人留学生として文部科学省に推薦し、それ以外の合格者を私費外国人留学生として受け入れる。</p> <p>2. 本入試に合格した者は、本学の他の入試に出願することはできない。（入学辞退届を提出し、受理された者を除く。）</p> <p>3. 出願資格審査申請期間は7月11日（木）～8月23日（金）とする。</p>  |